

～昔ながらの田園風景～ 地域の力で水車が復活

～ The old view of rural landscape. ～

The water mill revived in co-operation with the community.

生田 良昭 岩田 勲

Yoshiaki IKUTA and Isao IWATA

はじめに

神河町新野地区には、かつて1 km の間に18基の用水用水車が稼働し、のどかな田園風景を形成していました。古文書によると元禄6年(1693年)以前から存在していたと記されています。

また、清流にしか生息しない「梅花藻」が水路に群生する地域でもあります。

しかし、近年では水車の利用が減少し3基を残すのみとなってしまう、「梅花藻」も水路の水の流れを阻害することから除去されてしまうこともしばしばありました。



村おこし、村の活性化と水車

新野地区では、村おこし・村の活性化を図るために平成17・18年度にワークショップを開催し、あらためて集落を見つめなおし、地域住民の思いを出し合っ「新野活性化構想」をまとめました。

【構想の内容】

- ①水車の復元と維持管理
- ②梅花藻の保存と水路の掃除
- ③イベント・物産市の開催
- ④地域の伝統や取組を紹介するパネルの展示



構想実現に向けて

生田良昭：新野水車の会代表 (niino suisyanokai)

岩田 勲：神河町役場地域振興課 (kamikawa town office Regional Development Division)

平成18年度より補助事業を活用し、地域住民の手によって水車8基を製作、水路沿いの遊歩道整備、梅花藻水路の改修及び活動拠点施設となる「新野 水車の郷」を整備しました。



また、平成20年1月には水車や梅花藻など貴重な地域の宝ものを保全・PRし、都市と農村の交流を行うことを目的に地域の最寄代表を中心とした34名で「新野水車の会」を設立し、多くの人の知恵と汗により様々な取り組みを展開し、地域の人々の集う場としても定着してきています。

神姫観光によるバスツアーも企画されるなど、地元観光協会とも連携しながら、平成20年度には町内外から500人、平成21年度には600人の方々に新野地区の水車を楽しんでいただくことができました。

今後の目指す方向と課題

水車や梅花藻の保全はもちろんのこと、遊歩道沿道の花の植栽やイベント・物産市の定期開催を目指します。また当地区は、ホテルの飛び交う地域でもあるため、ホテルが生息しやすい環境づくりにも取り組みたいと考えています。また、町内の他集落との交流も積極的に進め、より輝いた地域づくりを進めます。そして、子どもたちが成人するときには、水車の回るすばらしい田園風景があるところで生まれ育ったんだと誇りに思ってくれることを期待しています。

一方課題としては、定例開催している物産市への農産物等の確保と、都市住民が何度も来たいと思っただけの仕組みづくりが必要と感じています。

こういった面についても、「新野水車の会」を中心に、地域住民の知恵を出し合いながら「オンリーワンの集落」づくりに努めていきます。

